

LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト～ インクルーシブ教育 実践事例

事例の活用について

※本事例の知的財産は投稿者に留保されます、使用される際には出典として
「LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト 組織名」 を記載ください。

■基本情報

組織名： 埼玉県立越谷西特別支援学校

所在地： 埼玉県越谷市

※都道府県・市区町村

氏名： 三浦秀明

投稿月日： 2026年2月20日

■インクルーシブ対応を検討するきっかけとなった児童・生徒（※以下「対象の子ども」と略）について

対象の子どもの学齢 高校2年生

例：小6 12歳

障害種別：

- 知的障がい、知的障がいを伴う ASD
高機能自閉、アスペルガー症候群 読み書き障がい
注意欠損多動性障がい (AD/HD) 肢体不自由
聴覚障がい 構音障がい 視覚障がい 病弱
重度重複障がい その他 ()

主訴 (主な困り)

- 読む 書く 聞く 見る 話す 記憶する 移動する
その他 (不同視弱視、成長障害)

その他補足

- ・ 不同視弱視の障害や手指の巧緻性に課題があり、美術等の授業で「絵を描く」といった活動において、細部を捉えることや正確に線を引くことに困難さがあり、意欲はあるが達成感を得にくい状況にあった。
- ・ 人と話すことが好きだが、コミュニケーションをとる中で自分から話題を提供したり、関係を広げたりすることに課題がある。
- ・ 本人・保護者の願いとして、自分でできることを増やすことや、学校生活を通じて適切なコミュニケーションができるようになってほしいということがある。

■対象の子どもが利用している ICT について

①利用端末（ハード） タブレット PC その他（ ）

②OS Windows MacOS Chrome Android OS その他

③使用した ICT の機能やアプリを教えてください。複数あれば、ボックスを追加して記載してください。ネイティブアプリ（最初から搭載されているアプリ）の URL は記載不要です。

名称：ドット絵ナニカ

紹介 URL：http://dot-e-nanika.com/#google_vignette

名称：Microsoft Excel

紹介 URL：https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/excel?msocid=33844e6bb942658c097e58afb879642b

④上記の ICT を活用して、対象の子どもの困りをどのように軽減されたかを詳しく記載ください。

・基となる絵やイラストをドット絵にし、□の中に決められた色を塗分けられるようにして絵を描くことで、細かい線の角度や位置を気にすることなく、対応する色と□の枠に注意を向けて、キャラクターの輪郭やポーズ等も意識しながらきれいに仕上げることができるようになった。

・また塗分けの色については、色ごとに番号をつけて、□の中に番号を入れることで、一つ一つの枠の中の色を確認しながら絵の細部にも色鉛筆で色を塗ることができるようになった。

・本人が選んだ元の画像から変換して作ったドット絵をエクセル上で32ドットに合わせた枠を作り、ドット絵に対応する色の番号が書かれたワークシートを用意し、ドット絵の完成図を見ながら色鉛筆で色を塗るようにして取り組んだことで、生徒がイメージをもって意欲的に取り組むことができた。

■インクルーシブ対応状況について

1 インクルーシブ対応の検討の 児童生徒は、どの範囲まで利用が可能ですか？

教科	<input checked="" type="checkbox"/> 全ての教科で使用可能 <input type="checkbox"/> 特定の教科のみ使用可能
場所	<input type="checkbox"/> 通級等のみ <input type="checkbox"/> クラス限定 <input type="checkbox"/> 学年限定 <input checked="" type="checkbox"/> 学校全体
利用シーン	<input checked="" type="checkbox"/> 宿題 <input checked="" type="checkbox"/> 授業中 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 定期テスト <input type="checkbox"/> その他 ()

2 周囲の児童生徒が ICT を使用するにあたり、個別の許可が必要ですか？

はい いいえ

■インクルーシブ対応に向けての工夫について

①前問で、「いいえ」と回答された方にお伺いします。環境整備に向けた実施事項/工夫点について記載ください

実施事項/工夫点

- ・課題グループの美術の一単元に組み込み取り組んだことで、本人一人を特別扱いすることなく、グループ全体でドット絵の特徴や描き方といった技法について学びながら、ドット絵を描く機会を設定することができた。また、周囲にも完成したものを見せて褒められる中で喜び、自己肯定感が高まる様子が見られた。
- ・生徒自身がタブレットを使って、ドット絵ナニカのサイトで、画像をドット絵に変換することで、ドット絵へ変わることへの感動も引き出すことができた。取り組みの中でドット数についても様々なドット数のドット絵があることを理解しながら、実際に自分にできる大きさのドット数を考えて 32 ドットのサイズを選ぶ様子が見られた。
- ・本指導について保護者に説明する中で、ドット絵へ取り組むことへの本人の意欲が非常に高まっていることを受け、指導に使用したドット絵ナニカのサイトやワークシートについて、著作権等に留意しながら家でも取り組めるように説明を行った。
- ・普段よく見るものや本人の好きなものを題材に選ぶことで、本人の興味関心にあつた内容で学習を進めることができた。
- ・担任とも授業の様子を共有し、クラス内でドット絵の話が出た際にも、本人を中心にドット絵の話でもりあがることが増えた。

■その他

参考になる写真があれば、こちらに添付してください。

※個人の写真が含まれる場合、事前に保護者の許可が得られているものに限ります。詳細は投稿要綱をご確認ください。



本校のキャラクター
「ペン太」



生徒が視写で書いた
「ペン太」のイラスト



ワークシートを使って、
ドット絵を描いている生徒の様子



生徒がドット絵で描いた
「ペン太」のイラスト

■変化や効果について

①対象の子どもにどのような変化がありましたか

- ・生徒がドット絵を上手に描けたことが自信となり、実施している美術の授業を楽しみにし、休み時間でも「次はいつやるのか」「〇日の美術はドット絵をやるのか？」といったやりたい気持ちを自分から教員に伝える様子が見られるようになった。また、今後描いてみたいドット絵の題材についても話す様子が見られるようになった。
- ・休み時間や手が空いた時間に、教室でドット絵のワークシートを自分で用意して取り組むようになった。
- ・給食の時間等で、担任の先生に美術での授業の様子や学習内容について自分から話すようになった。
- ・家でもドット絵の話についてよく話し、欠席した際には、ドット絵を学校でできなかったことを残念がる様子が見られた。

②対象の子ども以外の児童・生徒や、学校全体にどのような変化がありましたか

- ・普段あまり関わりがなかった生徒とも、休み時間等に本人がドット絵をやっている様子を見たことがきっかけとなって「何をしているのか？」というような質問からはじまり、ドット絵がきっかけになって和やかに会話をする様子が見られるようになった。